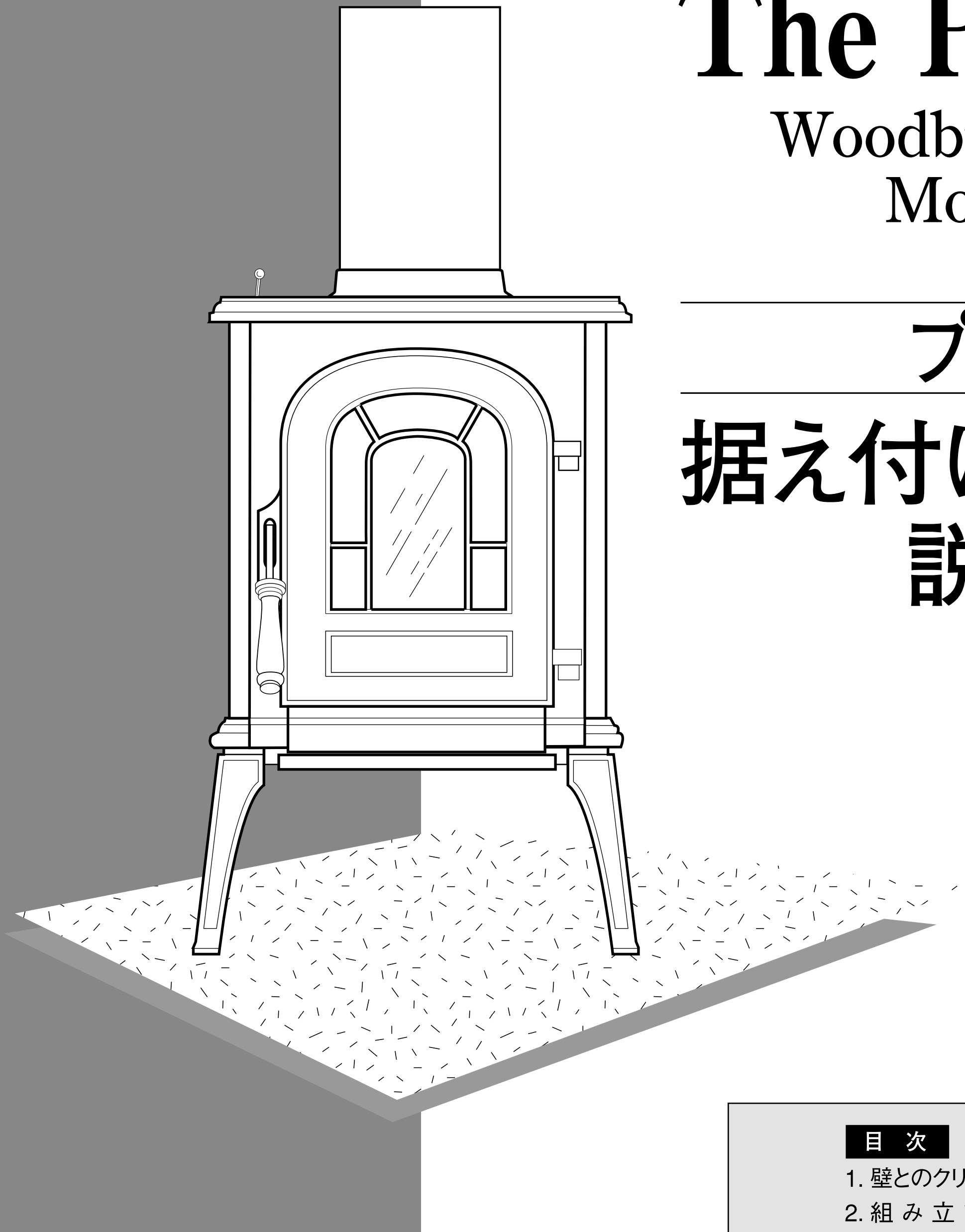
The Plymouth

Woodburning Stove
Model 1625

プリマス

据え付け・取り扱い説明書



目　次

1. 壁とのクリアランス…………………1P
2. 組 み 立 て………………………3P
3. 運　　　転………………………5P
4. メンテナンス………………………9P
5. 本 体 寸 法………………………12P
6. 部　品　図………………………13P

1. 壁との安全距離

本ページの表と次ページの据え付け状況図を参考にしながら、必要な安全距離をとって据え付けを行ってください。
「安全距離」とは、ストーブのトップ(天板)から可燃性物質の表面までの距離 のことです。
煙突の安全距離は、煙突の表面から可燃性物質の表面までの距離を測ります。

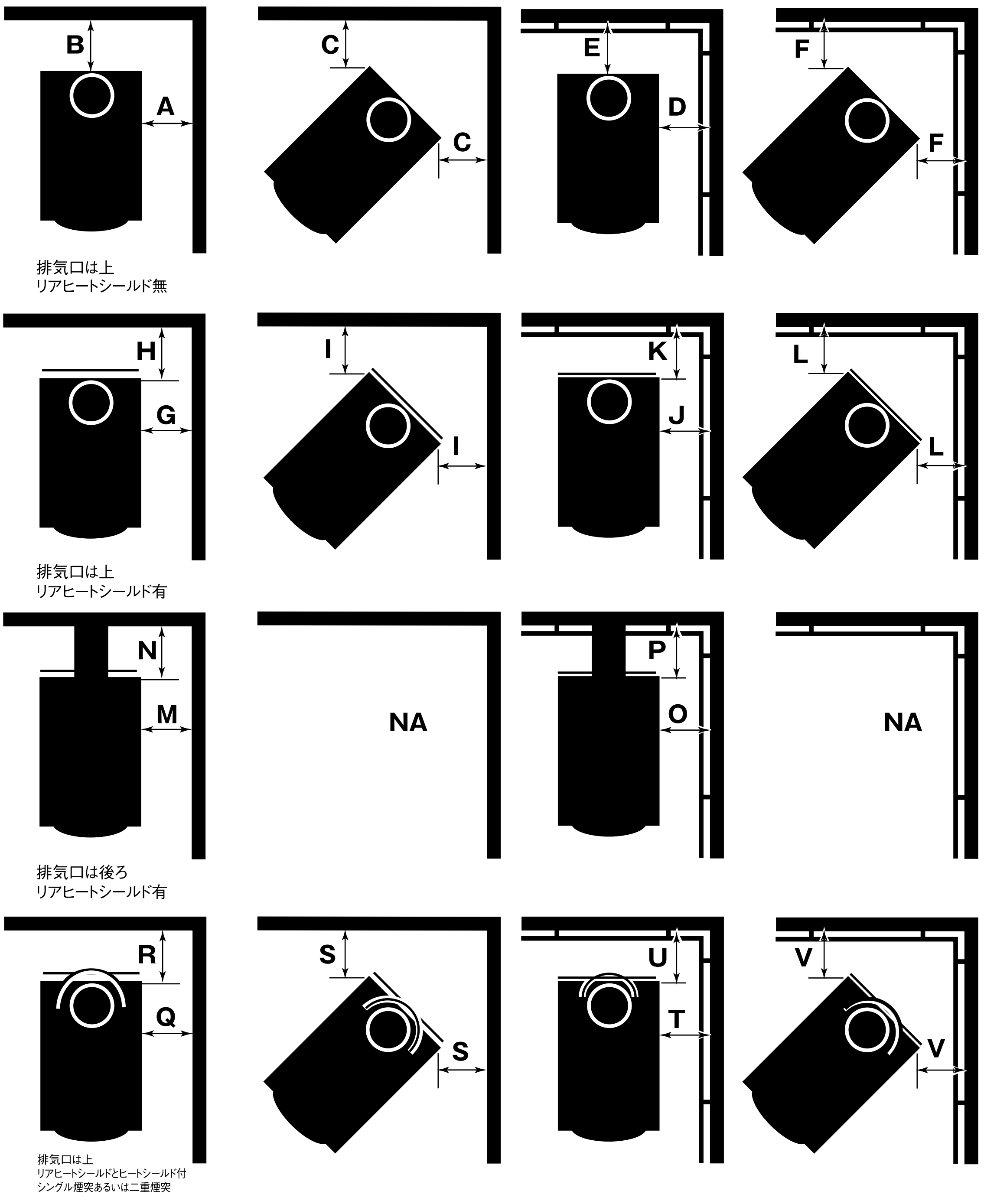
ストーブの安全距離	表面:保護処置なし			表面:保護処置あり		
	壁面に平行な据付		コーナー据付	壁面に平行据付		コーナー据付
	横	後ろ	コーナー	横	後ろ	コーナー
リアヒートシールド無	[A] 24″(610mm)	[B] 13″(330mm)	[C] 13″(330mm)	[D] 16″(405mm)	[E] 9″(230mm)	[F] 8″(200mm)
排気口は上 リアヒートシールド有	[G] 24″(610mm)	[H] 11″(280mm)	[I] 13″(330mm)	[J] 16″(405mm)	[K] 9″(230mm)	[L] 8″(200mm)
排気口は後ろ リアヒートシールド有	[M] 24″(610mm)	[N] 11″(280mm)	N/A	[O] 16″(405mm)	[P] 9″(230mm)	N/A
排気口は上、リアヒートシールド有 ヒートシールド付シングル煙突[1.2]	[Q] 24″(610mm)	[R] 9″(230mm)	[S] 13″(330mm)	[T] 16″(405mm)	[U] 9″(230mm)	[V] 8″(200mm)
排気口は上、リアヒートシールド有 二重煙突[1.3]	[Q] 24″(610mm)	[R] 7″(180mm)	[S] 13″(330mm)	[T] 16″(405mm)	[U] 7″(180mm)	[V] 8″(200mm)
煙突のクリアランス	表面:保護処置なし/垂直			表面:保護処置あり/垂直		
煙突ヒートシールド無	15″(380mm)			11″(280mm)		
煙突ヒートシールド有	13″(330mm)			6″(150mm)		
二重煙突	7″(180mm)			6″(150mm)		
	表面:保護処置なし/水平(天井)			表面:保護処置あり/水平(天井)		
シングル煙突	18″(460mm)			11″(280mm)		
二重煙突	7″(180mm)			6″(150mm)		
正面の可燃物との距離 *	すべての据付に共通					
	48″(1220mm)					

*衣服や家具、花火などの可燃性の物質との距離は1220mm以上必要です。
1 排気口が上にあるストーブに煙突ヒートシールドをつけるときは、ストーブのフルーカラーの後ろ側も守られるようにしなければなりません。
2 煙突ヒートシールドはストーブのトップからちょうど600mm伸ばさな くてはなりません。それ以上は、ヒートシールドは不要です。600mmより上のシールドされていない煙突と保護処置されていない壁との距離は330mm必要です。
3 排気口が上にある据付の場合は、リアヒートシールドを使わなくてはなりません。
4 ストーブの下にも耐火処理が必要です。床の上に直接設置した場合は輻射熱により、火災となる危険があります。
5 上記の寸法が守られずに設置された場合は、炭化など火災につながる危険があります。

非保護処置表面

保護処置表面

非保護処置表面		保護処置表面	
ストーブを壁に平行に据え付ける場合	コーナー据え付けの場合	ストーブを壁に平行に据え付ける場合	コーナー据え付けの場合



2. 組み立て

プリマスの組み立てには次のツールが必要です。

●9/16" スパナ

●安全メガネと手袋 ●マイナスドライバー

●電動ドリル（錘幅 1/8" (3mm)）

●プラスドライバー

●7/16" スパナ
（アッシリップと外気導入アダプター用）

開梱手順

1.梱包のストラップやビニールのカバーを取り除きます。

2.輸送中に破損、紛失した部品がないかチェックし、破損[注:]が認められたときはすぐに販売店に連絡してください。
破損や紛失部品があるときは、ストーブは据え付けないでください。
パーツバッグには以下の金物が入っています。

●ストーブの脚（4）

●ワッシャー付き六角ボルト（4）

●ワッシャーのついた1/4-20 x 5/8" 六角ボルト（2）

●#10 x 1/2"ネジ（3）

●補修ペイント（ホーロー仕上げのストーブにだけついてきます）

注:ホーローの性質上、輸送中や使用中にカケが発生する事は避けられません。
この場合補修ペイントで対処願います。

ストーブの脚の取り付け方

誰かにストーブを傾けて支えていてもらうと、脚の取り付けは楽に行えます。

1.助手に、ストーブの側面を上にした状態でストーブを傾けて、支えていてもらいます。ストーブの底板の四隅にある脚取り付け穴から、ネジを取り外します。

2.ワッシャー付き六角ボルトを使って、二本の脚を取り付けます。脚のショルダーが、ストーブの底板の四隅にある突起部の中におさまるようにしてください。(図22)
スパナでボルトを締めますが、このときあまりきつく締めすぎるとネ ジ溝をつぶしてしまうので、気をつけてください。

3.助手に、取り付けられた脚に重量がかかるようにして、ストーブを傾けてもらいます。その間に残りの二つの脚を、ワッシャーと六角ボルトを使って取り付けます。

アッシュリップの取り付け方

ストーブの底に7/16"スパナを使って、二つの1/4-20x 5/8 六角ボルトとワッシャーでアッシュリップをしっかりと固定させます。(図 23)

外気導入アダプターの取り付け方

オプションの#1897外気導入アダプターには、直径75mmのエアーダクトをストーブ後部にある空気取込口に直接取り付けられるカラ ーがついてきます。このアダプターは、ボトム（底）やリア（背）にヒートシールドを取り付ける前に設置してください。

1.ストーブ背部にある空気取込口の真上にあるネジをはずします。

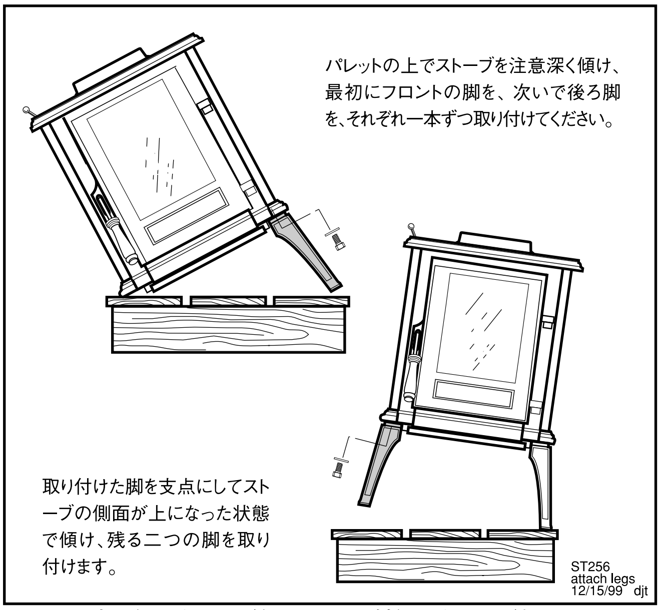


図22　一方の側の脚を取り付けてから、反対側の脚を取り付けます。

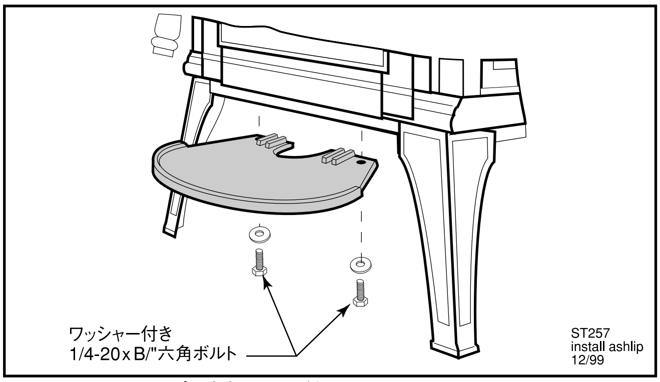


図23　アッシュリップを底板に取り付けます。

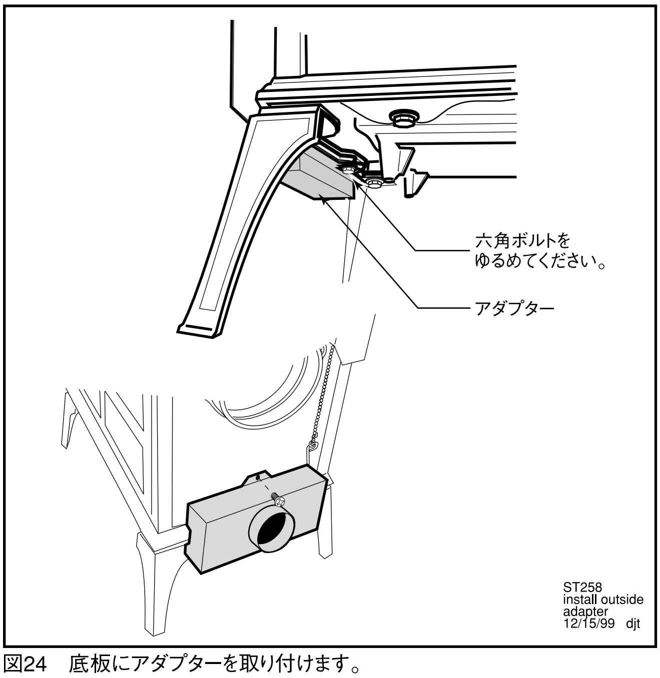


図24　底板にアダプターを取り付けます。

2.ストーブの底板の中央後ろ端にある六角ボルトを見つけてください。このボルトをゆるめ、ワッシャーの下にあるアダプターのUリンクのタブとかみ合わせたら、再びボルトを締めます。

3.リアヒートシールドをつけない場合は、「ステップ1」ではずした穴にネジを戻し、アダプターの上部フランジをストーブに固定させます。

フルーカラーを後ろにする方法

煙突との接続をストーブの背面から行いたいときは、ストーブのトップ(天板)からフルーカラーをはずして、ストーブの後ろに移動させなければなりません。(図25参照)

1.プラスドライバーを使って、ストーブの背面からネジとリアカバープレートを取り外します。

2.ストーブのトップから二本のネジを抜いて、フルーカラーを取り外します。

3.カバープレートをストーブの天板に取り付けてください。ガスケットが所定の場所にきちんとおさまっていることを確認します。

4.ストーブの背面にフルーカラーを固定させます。

5.煙突の最初の部分をフルーカラーに差しこんでください。カラーについている穴を目印にして、1/8" (3mm)の穴が煙突を通り抜けるようにドリルで穴を開けます。三つの#10 x 1/2"ネジで、煙突をフルーカラーに固定させます。

ボトムヒートシールドの取り付け方

断熱の十分な床に据え付ける以外、必ず#1985ボトムヒートシールドを装着させなければなりません。

1.1/4-20 x 3/8"ネジを、ストーブの底にある中央の突起から外してください。(図27)

2.取り外したネジを使って、ボトムヒートシールドをストーブの底に取り付けます。シールドはストーブ正面の灰受け皿の底にある鋳物の突起とちょうど合うはずです。

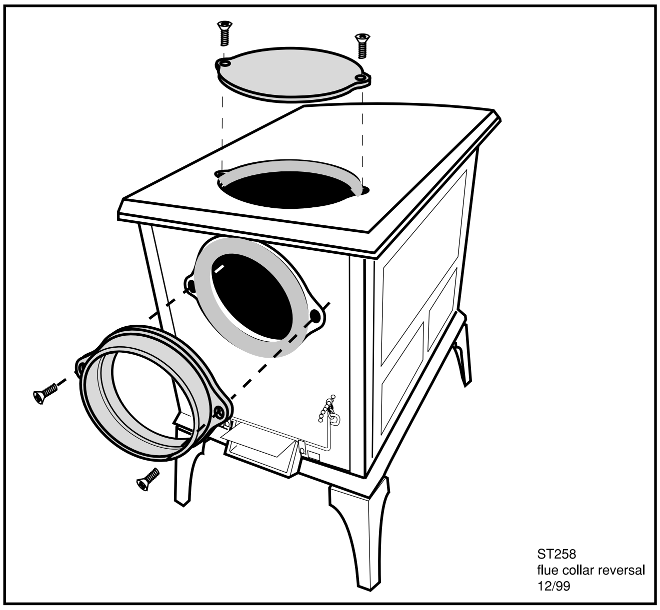


図25　フルーカラーを後ろに移動させる。

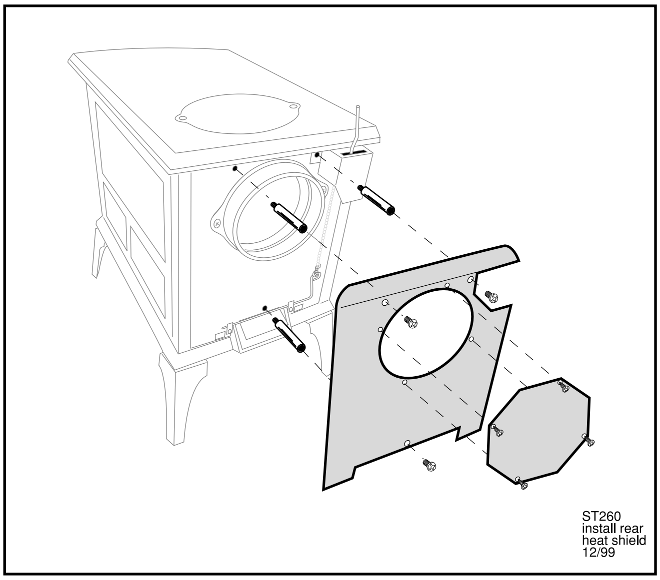


図26　リアヒートシールドの取り付け。

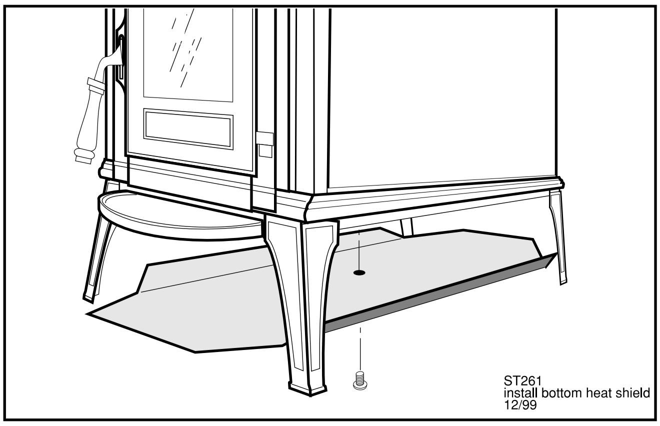


図27　ボトムヒートシールドの取り付け。

3. 運　転

プリマスの仕組み

プリマスの燃焼は、二つの異なる空気供給システムによってコントロールされます。
一次空気コントロールレバー（ストーブ背面の左隅にあります）は、火を起こしたり、維持したり、消えた場合に再点火させたりするために取り込まれる一次空気の量をコントロールします。（次ページ図28参照）
空気の量が増えれば増えるほど、火は高温で、より早く燃え、空気の量が少なくなればなるほど、低温で長時間燃焼します。
空気供給量を最大にして、熱出力を最大にしたいときは、（ということは、燃焼時間は最短になるということですが）レバーをまっすぐ上に（12時の方向）上げます。低温で長時間燃焼を持続させたいときは、レバーを右に動かしてください。レバーの位置は自由にセットできます。
どのような手動セッティングをしても、自動サーモスタットが確実に熱出力を均等にしてくれる、これがプリマスの特徴です。燃料が燃えるにつれ、サーモスタットは、ストーブの表面から放射される熱に反応して、空気シャッターを調整します。火力（および熱出力）が高まるにつれ、サーモスタットが徐々にエアーシャッターを閉じ、とりこまれる燃焼空気を制限するのです。火の強さが落ちてきて、熱出力が減ってくると、サーモスタットが再び働いて、エアーシャッターをさらに開き、こうして火力を強めるための燃焼空気をとりこむのです。
このような空気の干満が絶え間なく機能することで、燃料が尽きるまで、燃焼サイクルを長びかせるように続きます。

警告

火を起こすとき、化学物質・液体を使わないでください。ゴミや可燃性の液体（ガソリン、ナフタ、エンジンオイル）を燃さないでください。ガソリンタイプのランタンオイルや灯油、石炭着火油など、火を活性化する液体は絶対に使わないでください。ストーブの燃焼中は、こうした液体はストーブのそばから遠ざけておくようにしましょう。

注意

プリマスは、燃焼中は高温になりますので、小さなお子様や衣服、家具は近づけないように気をつけてください。熱くなったストーブに触れると火傷します。
このストーブは熱くしすぎにないようにしてください。加熱しすぎると、ストーブを破損させたり、火災を引き起こしたりすることがあります。
ストーブのどこかが真っ赤になっていたら過熱状態にあると思ってください。

酸素はもうひとつのルートからも供給され、燃焼室の上部に送られ、主燃料床から放出されるガスの燃焼を助けます。二次空気の入口は二つのストーブ引き込み口から取り込まれ、別々のルートを通って来る間に加熱され、火室のトップにある三つのステンレス製の多孔管に送り込まれます。

燃料は品質の良い薪を

プリマスは天然の薪を焚くように設計されています。他の燃料は焚かないでください。
十分に乾燥させた薪を焚くと、プリマスの良さを十分に発揮させられます。
生木は焚かないでください。薪は最長40cmまで入りますが、短い方が入れるのが楽ですし、燃焼効率も高くなります。
良い薪材とは、ナラ、カエデ、カバ、クヌギなど堅い木を、割って、積み上げ、カバーをかけた状態で戸外で少なくとも一年間は乾燥させたものです。
堅い薪が手に入らない地域では、カラマツ、アカマツ、スギ、ヒノキなどをよく乾燥させて焚いてください。
薪はストーブから十分な安全な距離に置いてください。ストーブへ薪をくべたり、灰を出したりする作業スペースを確保しておくことが大切です。

エアーコントロール

空気の調整具合は、これで絶対というものはありません。薪の質やどのぐらい暖かくしたいか、どのぐらい火を保ちたいかなどの条件により異なります。
据え付け具合による通風力（ドラフト）とか煙突の吸い込み力によっても異なったセッティングが必要です。通風は煙突の長さ、種類、位置、お宅の地理的状況、家のそばの障害物などによっても異なります。
プリマスの場合、あまり通風が良すぎると、ストーブを傷めることがあります。その一方で、不十分な通風だと、部屋の中に煙が逆流したり、煙突を詰まらせたりする原因になります。
通風が強すぎるのか弱すぎるのかを判断する目安があります。
通風が強すぎると、燃焼がコントロールできなかったり、ストーブの一部が真っ赤になったりします。通風が足りないと、煙が煙突やストーブの接続部分から室内に逆流したり、温度が上がらなかったり、ガラスが汚れるなどの症状が見られます。

空気量と住宅の気密性の問題

最近の家は密閉状態が優れているので、通風が悪いと室内の空気が足りなくなる可能性があります。そのような場合には、ストーブ近くの風上側の窓を少し開けて、新鮮な空気を室内に取り込んでください。

ストーブに十分な燃焼空気を送り込むためのもっと良い方法としては、外気導入ダクトで直接取り込むという手があります。プリマスにはオプションの外気導入アダプター#1897があります。販売店にお問い合わせください。

ストーブを最初にご使用になるときは、エアーコントロールをどのように調整したらよいか、セッティングの具合を研究してみてください。特定のセッティングをすれば、一定の暖かさがもたらされることがすぐにわかります。暖かさと燃焼時間の関係がわかるには、少し時間がかかるかもしれません。いろいろなセッティングを試してください。

注意:どんな理由があろうと、指示されたエアーコントロール調整幅を変えてまでストーブの燃焼を強くすることは絶対にしないでください。

手始めに、エアーコントロールは次のようにセットしてみてください。(図28参照)

プリマスのエアーコントロール・セッティング

燃焼状態	主空気調整
高	12:00の方向から
中	1:00の方向から
低	2:00の方向から

ストーブを使い始める前に、この説明書をお読みになり、据え付け具合によっていかにストーブの性能が変わってくるかを理解してください。使用者とストーブとは一体だと思ってください。ストーブの性能を高めるには、ご自分の燃焼テクニックを高めることも大切です。

着火と火を保つ

ストーブの調整

鋳物は非常に強い材質ですが、ハンマーなどで鋭い一撃を加えられたり、急激な温度変化によるショックを受けると壊れることがあります。

鋳物は温度変化により伸び縮みします。初めてプリマスをご使用になるときは、ステップ1-3の手順に従って熱によるストレスを最小にするようにして、三、四回、慣らし運転をしてください。

燃料は天然の薪だけです。直接グレートの上に置いてください。薪の位置を高くしすぎたり、石炭などほかの燃料は焚かないでください。

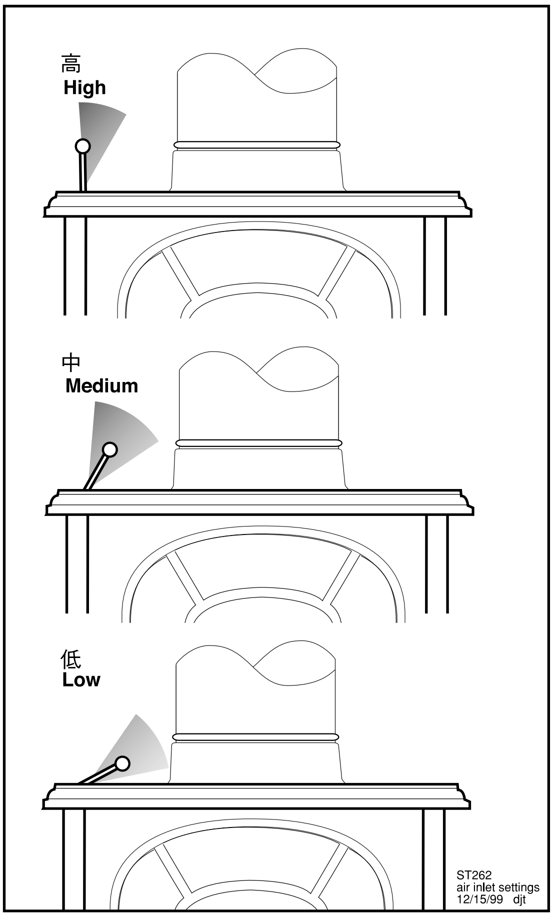


図28　エアーコントロールのセッティング:低-中-高

注意 ストーブは必ずドアを閉めて燃やしてください。

一次空気取り込み口は、着火や薪をくべるときは「開」にしてください。

ステップ1　一次空気取り込み口を全開します。

ステップ2　新聞紙を丸めてストーブの中に入れます。カラー紙や光沢のある紙は良く燃えないので、使わないでください。新聞紙の上、火室の手前に、乾燥した指の幅大に割った焚き付けを6〜8本載せて、その上に25-50mmの薪を2、3本載せてください。

ステップ3　新聞紙に火をつけ、ドアを閉めます。直径80-120mmの薪を徐々にくべながら、火を起こしていきます。慣らし運転で焚く場合は、火を赤々と燃やし、自然に消えるようにしてください。

- **慣らし運転の場合、ストーブが摂氏200度以上に過熱しないよう、気をつけてください。**
  オプションの温度計を天板につけることもできます。燃焼の調整はエアーコントロール・レバーで行います。
- 最初にストーブを焚くときは、金属やペイントやセメントの臭いがしてきますが、これは異常なことではありません。

注意
煙突によっては、呼び水的なことをする必要があります。つまり事前に煙突を暖めると、火が消えないだけの吸い込みを起こすようになります。まず新聞紙を何枚か丸め、焚き付けの上と後ろ側に置いたら、火を着け、ドアを閉めてください。これで、煙突が暖まり、十分な吸引力がつきます。その後フロントドアを開けて、燃料床に載っている残りの燃料に着火させてください。
煙突の吸引力がつくまでは、主燃料は燃さないでください。

ステップ4 ステップ1-3を経て慣らし運転がすんだら、徐々に火を焚き続けて、赤々と輝く熾き（オキ）が溜まるまで、直径75-100mmほどの大きな割薪を足してゆきます。ストーブが良く機能するには、良いオキの床ができなければなりませんが、これができるまで、一時間ぐらいかかります。

ステップ5 お好みの熱出力に合わせて、エアーコントロールを調整してください。

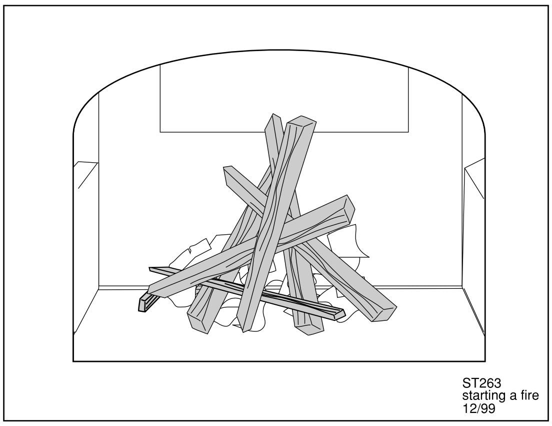


図29　乾燥した小さな焚き付けで火をつけます。

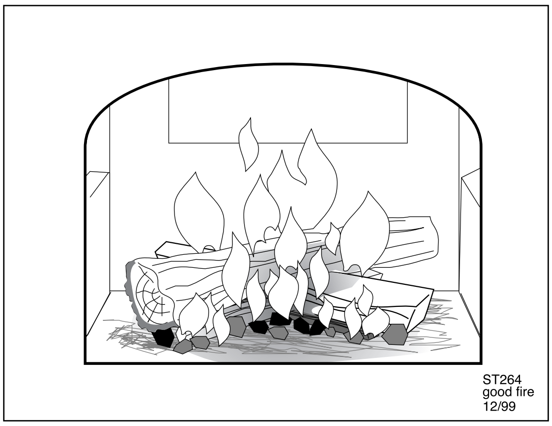


図30　すべての薪が良く燃えるよう大きな薪は徐々に入れてゆきます。

オキが熱いうちに薪を足す

オキがまだ熱いうちは、薪をその上に足すだけで、火は再び燃え上がります。薪を足すとき、焚き付けを少し混ぜると、温度はすぐに上がってくれます。薪を足すときは、ストーブ用手袋をはめ、手順に従って行ってください。

ステップ1 エアーコントロールを全開にしてください。

ステップ2 ドアを開けて、灰受け皿の中の灰の量を調べ、必要なら、灰を捨ててください。

ステップ3 ファイヤープレース・ツールを使って、炭を砕き、灰をグレートから下に落とします。後ろの方の炭を前の方に掻き出し、一次空気取り込み口プレートに被さるように置きます。これで、燃料が前の方から後ろの方に燃えるようになり、効率良く燃焼します。（図31参照）

ステップ4 薪を載せるときは、小さく割ったものを先に載せ、ドアを閉めます。薪を足した後、数分間はエアーコントロールを最大にセットして運転すると、理想的な燃え方をしてくれます。火が再び燃えてきたら、一次空気コントロールをお好みの熱出力が得られるようにリセットしてください。

灰を捨てる

灰受け皿いっぱいに灰が溜まる前に灰を捨ててください。どのくらい灰が溜まっているか、灰の高さを一日一回か、薪を足すたびにチェックするようにしましょう。革手袋を使って、ハンドルを持って灰受け皿を引き出します。はずしたら、灰が傾むいてこぼれないよう、気をつけてください。

灰受け皿は定期的に空にしてください。基本的な頻度としては最低三日に一度ですが、使用状態によって異なってきます。薪を高出力にセットして焚けば焚くほど、灰は早く溜まります。

灰はきっちりとふたの閉まる金属製のコンテナーに捨て、コンテナーは屋外に、燃えやすいものから十分離れた所に保管してください。灰を土にまいて捨てるときは、灰が完全にさめるまで待って行ってください。木の灰は庭の植物の肥料になります。

注意

ストーブの灰を、掃除機で吸いとったりしないでください。必ず指示された方法で灰を取り除くようにしてください。

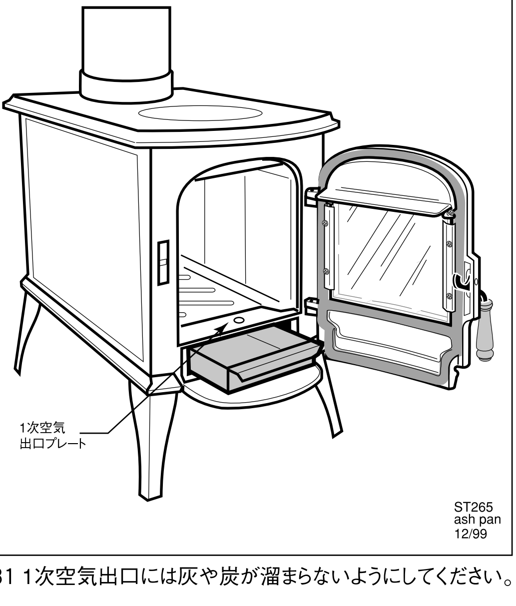


図31 1次空気出口には灰や炭が溜まらないようにしてください。

注意

ストーブのドアを乱暴に閉めたり、ガラスを叩いたりしないでください。ガラスなしで、あるいはガラスにひびや割れが入ったままストーブを使用しないでください。ガラスの代わりに何かをはめてストーブを焚くこともしないでください。ガラスの入れ替えについては、メンテナンスの項をお読みください。

4. メンテナンス

どのようなメンテナンスを行うときでも、火は消し、ストーブが完全に冷めてから行ってください。

鋳物の表面のお手入れの仕方

乾いた布で時々ほこりをはらうと、プリマスの鋳物の表面は真新しい感じになります。必要に応じてストーブ表面のペイントを修正することができます。まず、塗装したい表面をワイヤーブラシできれいに掃除し、それから専用の耐熱ストーブペイントを塗ります。ペイントは少しずつ塗ってください。薄塗りを二回する方が、厚塗りを一回するより良いことを覚えておいてください。

ホーロー仕上げのお手入れの仕方

汚れやこびりつきを取るときは、乾いた布か少し湿った布、あるいは柔らかなブラシを使います。クレンザーなどを使うときは、必ずホーロー用のものを使ってください。

ガラスの清掃の仕方

ガラスについたすすは、炎が熱く燃えている内にとれてしまうものです。ただ、ガラスの表面に付着した灰の残留物は定期的に掃除して、ガラスに傷がつかないようにしなければなりません。ガラスの掃除は次の手順に従って行ってください。

●ガラスが完全に冷えていることを確認します。
●水かガラスクリーナーでガラスを拭いてください。研磨クリーナーは使わないでください。
●ガラスをきれいに拭きます。
●ガラスを完全に乾かします。

ガラスの交換

入れ替えるガラスは、マジェスティックのパーツナンバー3000-0606以外は使わないでください。ガラスは三本のガスケットでできたクッションの上に載せ、二つのクリップで固定させます（図32）。ガラスは片面が軽くカラーコートされています。ストーブからドアを取り外し、頑丈で水平な作業台に載せてください。ホーロー仕上げの場合は、表面を保護するために、タオルを敷くとよいでしょう。

1.ドアーマニフォルドを取り外してください。
2.ガラスクリップを取り外してください。
3.ガスケットを点検します。とくに何も問題がないときは、そのままにしておきます。交換しなければならないときは、必ずマジェスティックのガスケット（二本の垂直PN3000-0872と一本の水平-PN3000-0382）以外は使わないでください。ウインドー開口部の周囲の溝にゴミやほこりが詰まっていないことを確認してください。三本のガスケットを図32に従って、パネルのはめ込み部に入れてください。
4.ガラスを入れます。コート面をドアーの外側に向かって下にし、ガスケットの上にガラスを置きます。ネジをきちんと締めますが、ストーブの運転中にガラスが軽く動ける程度のゆるみを残しておいてください。ネジをきつく締めすぎると、すぐにガラスにひびが入ったり、熱くなったときに膨張できず、割れる原因となります。

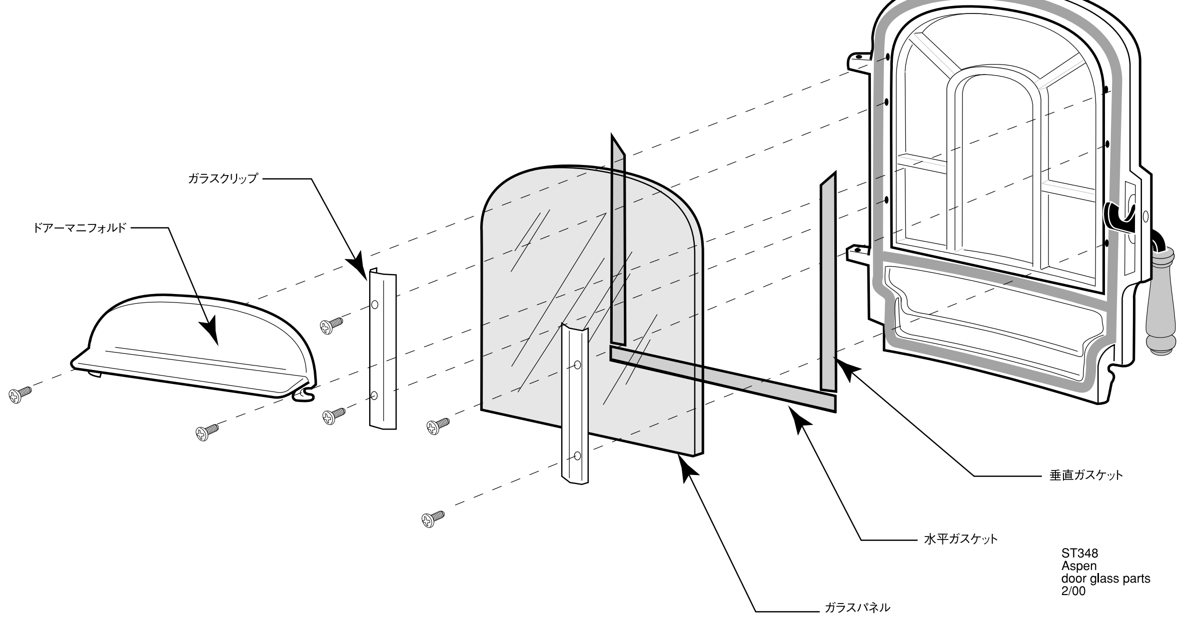


図32　ドアガラスの取り付け

ガスケットの交換

特定のパーツ間を密閉するために、プリマスはロープ形のガスケットを使っています。ガスケットは使用するにつれて、もろくなり、つぶれ、本来の効果がうすれてきます。特に可動部につけられたガスケットには、この傾向が強まります。ガスケットは定期的に交換が必要な部品です。

交換ガスケットのサイズと使用部分は次の通りです。

ガスケットの直径	使用部分
5/4-16"ラウンド	フルーカラー・ガスケット
3/8" ラウンド	天板
7/16"ラウンド	ドアガスケット
1/2" フラット	ガラス用垂直ガスケット
1/2"フラット	ガラス用水平ガスケット

ガスケットの交換は、火が完全に消え、ストーブが冷えるまで待ってください。交換作業をする際は必ず安全メガネやマスクを使用してください。

ステップ1 現在ついているガスケットの端をつかみ、しっかりと引っ張ります。

ステップ2 ワイヤブラシかドライバーを使って、溝をきれいにします。セメントやガスケットが残らないように掃除してください。頑固なセメントは、タガネなどを使って取り除いてください。

ステップ3 溝に合わせて置いてみるなどして、ガスケットのサイズや長さを決定してください。25-50mmの余裕を持って、切断する箇所に印をつけます。

ステップ4 溝からガスケットを取りはずし、表面が木の台の上に置き、ナイフでマークした箇所を切ります。端を少しよって、ガスケットがほぐれないようにしてください。

ステップ5 切れのないように3mm幅でガスケットセメントをビーズ状に、掃除した溝に入れます。

ステップ6 片方の端からガスケットを溝に埋めてゆきます。ガスケットが出会う箇所では、余分を切る前に、よく合わせてください。端同士が重なったり、ぼそぼそにほどけた端でないよう、気をつけてください。

ステップ7 ガスケットが溝に均一におさまるよう、ドアを閉めて掛け金を掛けてください。その時、蝋紙(ワックスペーパー)などをドアに挟んでから閉めると、セメントがガスケット以外の部分にくっつくのを防ぐことができます。

ステップ8 溝の周囲にはみ出たセメントを取り除いてください。それから、セメントが完全に乾燥して新しいガスケットがしっかり接着するまで待ちます。

ドアの調整

ドアの掛け金(ラッチ)は、ガスケットが次第につぶれてくるにつれて調整してやる必要があります。掛け金(ラッチ)のかみ合わせは、ラッチプレートの下にあるシム(詰め金)ワッシャー(図33参照)を取り外すことで、きつくすることができます。取り外すのは、一度に一対にしてください。かみ合わせをこの方法できつくすることが無理になったときは、ガスケット全体の交換時期です。

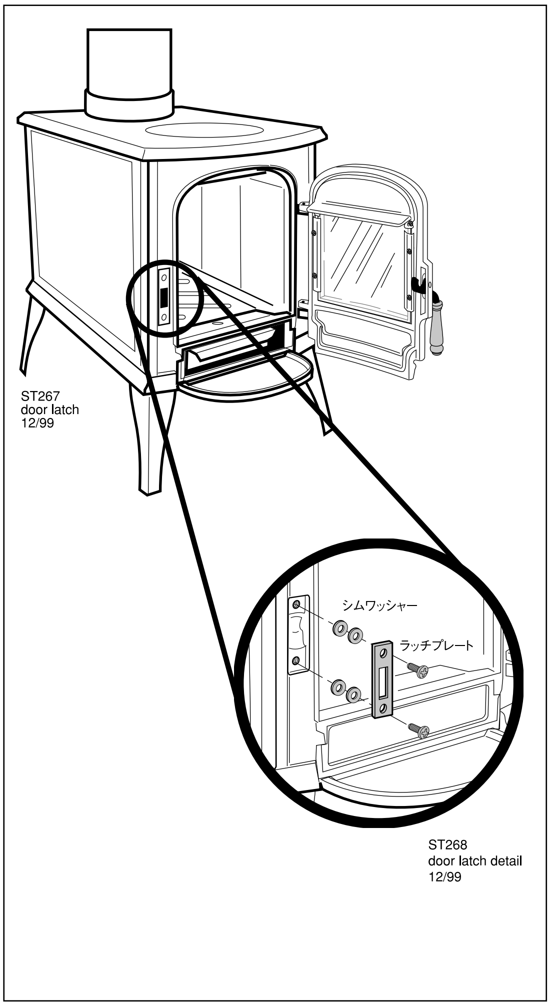


図33　シムワッシャーを取り外して、ラッチ(掛け金)のかみ合わせをきつくすることができます。

年に一度のメンテナンス

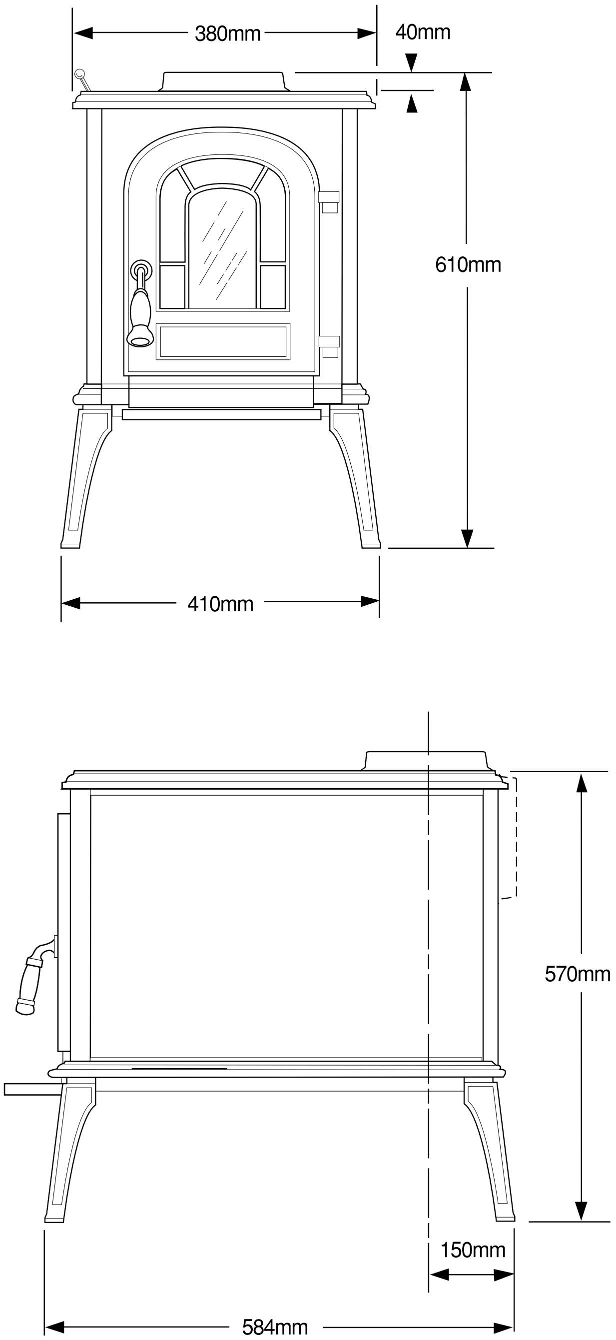
毎年春、ストーブの季節が終わったとき、きれいに掃除をし、修理箇所がないかを確かめてください。

●煙突を完全に掃除してください。
●煙突に問題がないか点検し、弱くなっている箇所があれば、交換しましょう。
●煙突囲いに使用しているレンガやタイルに損傷がある場合は補修してください。
●一次空気プレートの下に灰のかすが残っていないか調べ、あれば取り除いてください。
●ガスケットが摩耗したり、つぶれてしまっている箇所がないか調べて、必要なら交換をします。一枚の紙でガスケットの摩耗度合いの確認ができます。紙をはさんで、ドアあるいはダンパーを閉め、ロックします。それから、紙を引き抜いてみてください。するすると何の抵抗もなく紙が抜けるようでしたら、その部分のガスケットが効いていない証拠です。ダンパーや掛け金を調整しても、紙が引っぱり出せるなら、ガスケットの交換時期です。
●ドアハンドルの固さを調べ、必要に応じて調整してください。
●ヒートシールドのネジを調べて、必要に応じて締めてください。
●底（内側）、背部、コネクター・ヒートシールドのほこりを掃除します。
●灰受け皿の灰を捨て、吸湿材（猫のトイレ砂など）を入れたら、ストーブのドアを閉めます。
●ブラックのストーブの場合、ペイントを補修塗りします。

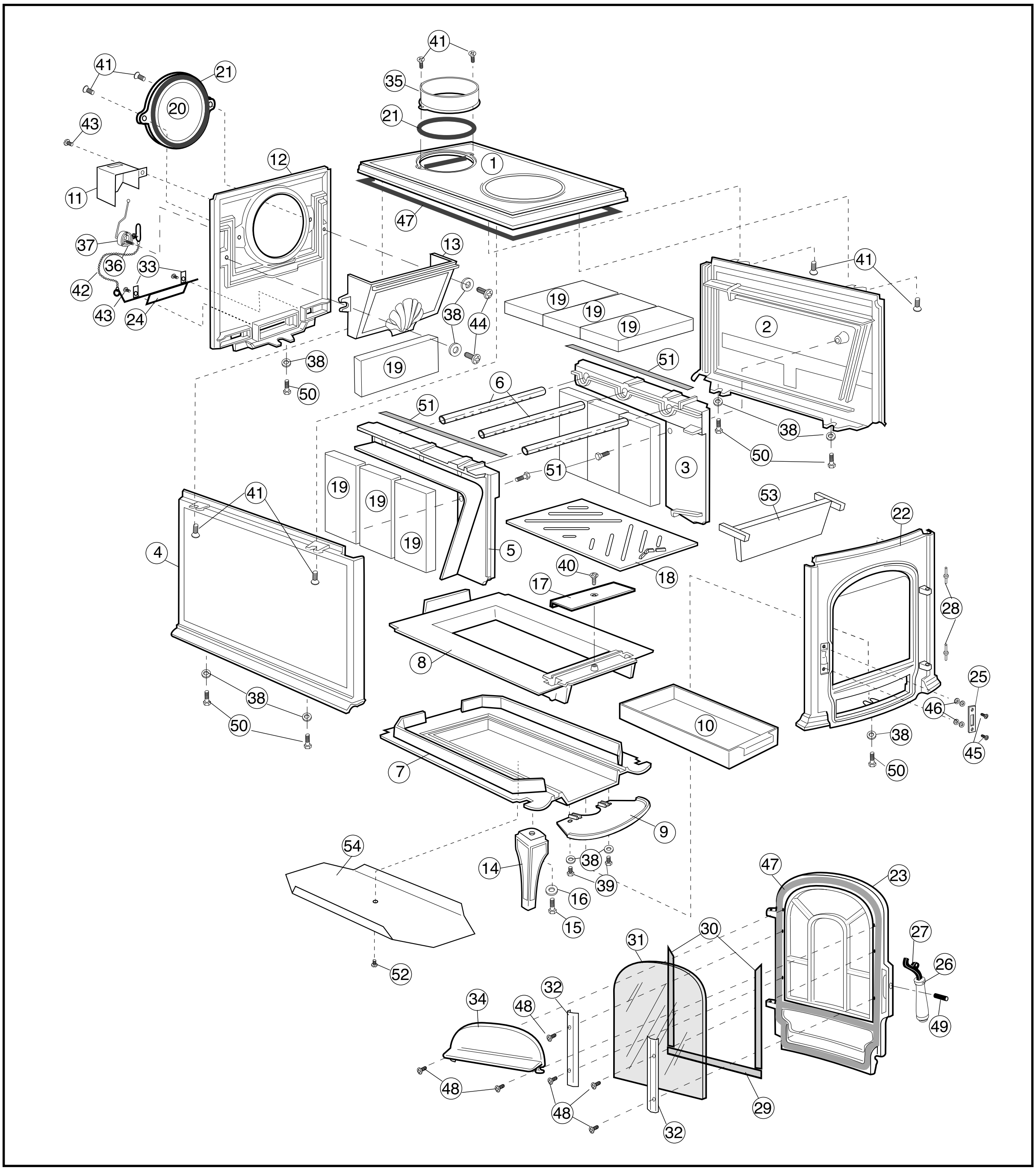
一次空気出口の掃除

1.一次空気プレートを留めているネジをはずします。（図31）
2.ドライバーをテコ代わりに使って、セメント付けした合わせ目からプレートをはずしてください。
3.くぼみ部分から灰のかすを取り除きます。
4.耐火セメントを使って、フロントとサイドの合わせ目を再びセメントで密閉し、プレートを戻したら、ネジで固定します。

5. 本体寸法



6. 部品図



Plymouth 1625

Item/Model Number	Part Number
1. Top	30000605
2. Right Side	30000872
3. Secondary Air Channel,Right	30000606
4. Left Side	30000873
5. Secondary Air Channel,Left	30000607
6. Secondary Air Tube	30000368
7. Bottom	30000343

Item/Model Number	Part Number
8. Bottom, Inner	30000346
9. Ashlip	30000339
10. Ashpan	30000363
11. Thermostat Cover	30000371
12. Back	30000618
13. Fireback	30000358
14. Leg（4）	30000360

Plymouth 1625

Item/Model Number	Part Number
15. Leg Bolt,3/8”-16×1” hex bolt (4)	1201432
16. 3/8” Flat Washer (4)	1202488
17. Primary Air Plate	30000356
18. Grate,Wood	30000604
19. Firebrick (10)	1601103
20. Flue Cover	30000351
21. 5/16” Adhesive Gasket	1203591
22. Front	30000619
23. Door	30000350
24. Primary Air Flap	30000370
25. Door Handle Catch	30000365
26. Wooden Handle	30000366
27. Door Handle Shaft	30000364
28. Door Pin,Long	1600416
29. Glass Gasket,horizontal (1)	30000382
30. Glass Gasket,vertical (2)	30000383
31. Glass Panel[2]	30000362
32. Glass Retainer (2)	30000474
33. Glass Clips (2)	1601394
34. Door Manifold	30000357

Item/Model Number	Part Number
35. Flue Collar	30000353
36. Friction Spring	1201846
37. Primary Thermostat Assembly	30000503
38. 1/4” Flat Washer,Zinc (10)	1202474
39. 1/4”-20×5/8” Hex Screw (2)	1201372
40. 1/4”-20×1X1/2” Flt Hd Phillips Screw	1200811
41. 1/4”-20×3/4” Flat Hd Phillips Screw (6)	1200881
42. Ball Chain,Thermostat	1201960
43. 10-20×1/4” Plain Truss Head Screw (5)	1200996
44. 1/4”-20×5/8” Round Hd Phillips Screw (2)	1200896
45. 1/4”-20×3/8” Round Hd Phillips Screw (2)	1200894
46. 1/4” Flat Washer (4)	1202475
47. 3/8” Low Density Gasket (5 ft.)	1203589
48. 10-24×3/8” Round Hd Slotted Screw (6)	1200983
49. 3/16”×1” Roll Pin	1201833
50. 1/4”-20×1” Hex Head Screw (8)	1201326
51. Gasket Flat w/adhesive (3 ft.)	30000504
52. 1/4”-20×3/8” Pan Hd Phillips Screw	1201053
53. Deflector Rib	30000597
54. Bottom Heat Shield	3000038

(0905/PLYM)

1 この部品表の“右”と“左”はストーブを正面から見た場合です。

2 ガラスはマジェスティック純正品のパーツナンバー30000606以外は使用しないでください。

3 この図での鋳鉄部品のパーツナンバーは、“クラシックブラック”ストーブ用です。
ホーロー部品を注文する際は色をご指定ください。

4 このストーブのネジ類は、インチサイズが標準です。

●ご不明な点がございましたら下記までご連絡ください。

ダッチウエスト ジャパン株式会社
〒080-0010　北海道帯広市大通南28丁目4
フリーダイヤル　0120-700-027

ダッチウエスト ジャパン株式会社
〒080-0010　北海道帯広市大通南28丁目4
フリーダイヤル 0120 0120-700-027